

事務事業名	消防団県、全国大会出場隊交付金事業		所属部局	消防本部		単位番号	13079	
			所属課室	消防課		課長名	芦沢俊一	
	☐ 実施計画事業		所属担当	地域消防		担当者名	森本浩人	
基本政策	基本計画	I 情報と連携の都市づくり	予算科目	会計	名称	款	項	目
政策	計画	06 安全な環境づくり	事業区分	01	一般	09	01	02
施策	体系	08 防災体制の充実						
事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 22 年度) ☐ 期間限定複数年度 (~ 年度)		法令根拠					
事務事業の概要	事業の内容・・・期間限定複数年度事業は次年度以降3年間の計画内容も記載 山梨県消防団員操法訓練大会が毎年実施され優勝した場合は全国大会に出場する。年度により種目は別になる。(22年度は小型ポンプ操法が大会種目であった) この大会で優勝すれば全国大会に出場できる。この大会用交付金である。 ・22年度より県大会が隔年になる。 ・種目(ポンプ車操法の部と小型ポンプ操法の部が隔年で行なわれる)			事業費の主な内訳 (22年度)				
				項目(細節)	金額(千円)	項目(細節)	金額(千円)	
				その他負担金	2,122			
						計	2,122	

1 現状把握 (DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 活動	22年度は県大会にて優勝し全国大会まで出場した。小型ポンプ操法において優秀な成績を収めた。
22年度活動実績	23年度は全国大会の無い年である。(このため県大会も無い)
23年度活動予定	
② 対象 (この事務事業は誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等	小型ポンプ操法出場隊員
③ 意図 (この事務事業により対象をどのような状態にしていのか、どのように変えるのか)	消防団員の士気の高揚
④ 上位目的 (どのような結果に結び付けるのか)	操作方法が間違わず完璧に出来た。

⑤ 活動指標 (事務事業の活動量を表す指標) 数字は記入しない	名称	単位
⇒	演習隊	隊
⑥ 対象指標 (対象の大きさを表す指標) 数字は記入しない	名称	単位
⇒	小型ポンプ操法披露する隊員数	数
⑦ 成果指標 (対象における意図の達成度を表す指標) 数字は記入しない	名称	単位
⇒	参加してよかったと思った団員数	人
⑧ 上位成果指標 (結果の達成度を表す指標) 数字は記入しない	名称	単位
⇒	良かったと思った団員数	人

(2) 事業費・指標の推移		単位	21年度 (決算・実績)	22年度 (決算・実績)	23年度 (予算・目標)	24年度 (次年度計画・目標)	25年度 (計画・目標)	26年度 (計画・目標)	最終 (トータルコスト・目標)
年間 トータル コスト	事業費	国庫支出金	千円						
		県支出金	千円						
		地方債	千円						
		その他	千円						
		一般財源	千円	0	2,122	0	300	0	300
	事業費計 (A)		千円	0	2,122	0	300	0	300
	人件費	正規職員従事人数	人		3		3		3
		延べ業務時間	時間		4,500		4,500		4,500
		人件費計 (B)	千円	0	20,075	0	17,829	0	17,829
	(A)+(B)		千円	0	22,197	0	18,129	0	18,129
活動指標		隊		0.0	1.0	0.0	1.0	0.0	1.0
対象指標		数		0.0	4.0	0.0	5.0	0.0	4.0
成果指標		人		0.0	30.0	0.0	30.0	0.0	30.0
上位成果指標		人		0.0	30.0	0.0	30.0	0.0	30.0

(3) この事務事業を取り巻く状況 (対象者・社会状況等) の変化、市民意見等

① この事務事業はいつ頃どんな経緯で開始されたのか?	平成15年の町村合併により南アルプス市となりそれに伴い八田村・白根町・芦安村・若草町・櫛形町・甲西町の6つの消防団が統合され、南アルプス市消防団となった。
② 事務事業を取り巻く状況は開始時または5年前と比べてどう変化しているか? また、今後の予測は?	平成22年度より消防団員の負担の軽減を図るため、山梨県が全国大会に出場する権利がある種目のみ県大会を実施することになった。昨年度は小型ポンプ操法のみ実施とし今年度は未開催。
③ 事務事業に対して関係者 (市民、事業対象者、議会等) からどんな意見・要望が寄せられているか?	ポンプ車操法、または小型ポンプ操法は、消防団員が火災時に安全及び迅速に水を出す基本操作なので、県大会が実施されなければ、今後支部演習等で行うことが重要ではないかという意見が出た。

(4) 改革改善の取り組み状況

① 改革改善の取り組み実施は?	☒ 取り組みしている ⇒ [内容↓] ☐ 取り組みしていない ⇒ [理由↓]
② これまでの改革改善の取り組み状況・経過 (取り組みしていない場合はその理由)	平成22年度より消防団員の負担の軽減を図るため、隔年で県大会を実施する事になった。そのために全国大会があるときに県大会も実施する。
③ H 22年度に実施した改革改善の内容	県大会優勝し全国大会に出場するにあたり、最小限の人員にて対応をした。

事務事業名	消防団県、全国大会出場隊交付金事業	所属部	消防本部	所属課	消防課
-------	-------------------	-----	------	-----	-----

2 評価 (Check1) 担当者による事後評価 (複数年度事業は途中評価)

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系の施策に結びつき、貢献しているか？意図が上位目的に結びついているか？	☐ 結びついていない (見直し余地がある) ⇒ [理由 ↓] ⇒ 3評価 (Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 結びついている ⇒ [理由 ↓] 消防団員がポンプ車等の基礎を習得する上で重要であり、機械に精通することにより災害時の対応迅速にできる。	
	② 公共関与の妥当性 この事務事業を税金を投入して市が行わなければならないのか？民間やNPOに委ねることは可能か？	☐ 見直し余地がある ⇒ [理由 ↓] ⇒ 3評価 (Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 妥当である ⇒ [理由 ↓] 団結力を高めることは、地域の安心安全を守ることに繋がる、この事業は消防団の訓練の最大の目標であるため。	
	③ 維持・継続の妥当性 現状の対象と意図、成果から考えて、この事務事業を将来にわたり、維持・継続していくことは妥当か？目的や事業の必要性を見直す余地はあるか？	☐ 見直し余地がある ⇒ [理由 ↓] ⇒ 3評価 (Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 適切である ⇒ [理由 ↓] 出場隊の士気の高揚と団結力を高め、さらに優勝という大きな目標 (全国大会出場権) があるため。	
有効性 評価	④ 成果の向上余地 事務事業のやり方・進め方を変えることで成果を向上させることはできるか？できない場合は何が原因でできないのか？	☐ 向上余地がある ⇒ [理由 ↓] ⇒ 3評価 (Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 向上余地がない ⇒ [理由 ↓] 県大会は今年度から隔年に開催になったので費用負担は少なくなる。	
	⑤ 類似事業との統合・連携の可能性 類似した目的を持つ事務事業が他にあるか？類似事務事業がある場合、その事務事業との統合や連携を図ることはできるか？	☐ 類似事務事業がある ⇒ (類似する事務事業の名称を記入 ↓) ☐ 統合・連携ができる ⇒ [理由と具体案 ↓] ⇒ 3評価 (Check2)・4今後の方向性に反映 ☐ 統合・連携ができない ⇒ [理由 ↓] ☒ 類似事務事業がない	
	⑥ 休止・廃止した時の影響及び休止・廃止の可能性 この事務事業を休止・廃止した場合影響はあるか？また成果から考えて、休止・廃止することはできるか？	☐ 影響なし ☒ 影響あり ⇒ [理由と影響の内容 ↓] 目標を失い団結力が低下する。	☐ 休止・廃止ができる ☒ 休止・廃止できない ⇒ [理由 ↓] 士気が落ちる可能性が高い。
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費 (コスト) を削減できないか？ (仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☐ 削減余地がある ⇒ [理由・具体案 ↓] ⇒ 3評価 (Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 削減余地がない ⇒ [理由 ↓] 県大会出場し優勝をめざしているものでこれ以上の削減はない。	
	⑧ 人件費の削減余地 成果を下げずに人件費を削減できないか？ (事業のやり方の見直しによる業務時間の削減や臨時職員対応や外部委託による削減はできるか？)	☐ 削減余地がある ⇒ [理由・具体案 ↓] ⇒ 3評価 (Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 削減余地がない ⇒ [理由 ↓] 県大会が隔年であり、優勝すれば全国大会出場となる、みんな優勝を目指し頑張っているのこれ以上の削減はない。	
公平性 評価	⑨ 受益機会・受益者負担の適正化余地 事務事業の内容が一部の受益者に偏っていないか？受益者負担を見直す必要はないか？公平公正か？	☐ 見直し余地がある ⇒ [理由・具体案 ↓] ⇒ 3評価 (Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 公平・公正である ⇒ [理由 ↓] 機敏な動作の習得は地域の安全安心に繋がる。	

3 評価 (Check2) 担当課管理者による評価結果と総括

(1) 1次評価者としての評価結果 ① 目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ② 有効性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ③ 効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ④ 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり	(2) 1次評価の総括 (事務事業を実施した結果を振り返り気づいたこと、課題、今後の方向性等について) 全国大会のある年だけ、県大会が行なわれることは費用の削減に繋がる。これにより各操作方法などの基本動作が疎かになることが考えられる、今後支部演習を充実強化していくことが必要。
---	---

4 今後の方向性 (事務事業担当課案) (PLAN)

(1) 今後の事務事業の方向性 (Check1の結果から定める) …複数選択可 ☐ 廃止 (目的妥当性①、②、③の結果) ☐ 事業統合・連携 (有効性⑤の結果) ☐ 公平性改善 (公平性⑨の結果) ☐ 休止 (目的妥当性①、②、③の結果) ☐ 成果向上 (有効性④の結果) ☒ 現状維持 (全評価項目で適切) ☐ 必要性検討 (目的妥当性①、②、③の結果) ☐ コスト削減 (効率性⑦、⑧の結果)	(3) 改革・改善による方向性 <table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト水準</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果水準</th> <th>向上</th> <td>☐</td> <td>☐</td> <td>☐</td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td>☐</td> <td>☒</td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td>☐</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> ※ 廃止・休止の場合は記入不要			コスト水準			削減	維持	増加	成果水準	向上	☐	☐	☐	維持	☐	☒		低下	☐		
				コスト水準																		
		削減	維持	増加																		
成果水準	向上	☐	☐	☐																		
	維持	☐	☒																			
	低下	☐																				
(2) 改革改善案について ① 県大会が隔年になったので大きな改革である。優秀な成績を残すことで全国大会に出場できることは、団員の士気の高揚に繋がる。 ② 全国大会出場を目指す年として集中出来る。 ③	(5) 事務事業優先度評価結果 <table border="1"> <tr> <td>成果優先度評価結果</td> <td>対象外</td> </tr> <tr> <td>コスト削減優先度評価結果</td> <td>対象外</td> </tr> </table>	成果優先度評価結果	対象外	コスト削減優先度評価結果	対象外																	
成果優先度評価結果	対象外																					
コスト削減優先度評価結果	対象外																					
(4) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策 ① 今回の改革改善が最良の解決策である。 ② ③																						